参議院選挙終盤情勢の特徴　98.5.26 メモ

取り扱い注意　※コピー禁止

４～５月の各種調査では「中川トップ、峰崎・紙がほぼ互角」
札幌市内では紙が峰崎より優位。投票率低下を考えると「峰崎：黄信号」点灯。
政党支持率では「民主・社民・共産がやや伸び。自民は頭打ち。」

①ご承知のように北海道新聞社が実施した世論調査（98.4.18 ～ 19）は、表題のようなストレートの報道はされていないが、中川が１９．２％、峰崎は１０．６％、そして紙が９．０％という調査結果であった。最近行われた独自の調査結果でもほぼ同様の傾向が現れており、調査による誤差（普通３～４％）を考慮に入れると、終盤に入った５月段階でも「中川トップを独走」「峰崎・紙はほぼ互角」の選挙戦を行っていると見ることができる。このため今後の注目点は、峰崎と紙との争いの展開がどうなるかということに集中される見通しである。

②特に注意を要するのは、現在の時点で紙が峰崎を上回っている選挙区は、主に札幌市内に集中していることである（札幌市内だけでは中川１位、紙２位、峰崎３位）。

　道新調査でも、札幌市内の３区では紙・中川が同率で首位（峰崎３位）。１区と５区では中川・紙・峰崎の順位となっている。最近の独自調査でも、１区・３区・５区では紙が峰崎に優位に立っている点では変わらない。２区・４区はほぼ互角（峰崎やや優位）。

この意味でも､選対が道都札幌に活動重点を必要とする方針を提起しているのは正しい。

③峰崎は札幌以外の郡部（中小都市を含む）では、全般的に健闘しているものの、一部の地域で、活動を強化しはじめた社民党・萱野が旧社会党支持層を掘り崩しているため、影響も出ている（特に７区～９区、１１区、１３区）。このため連合統一候補という厚い基盤をまだ十分に有利に発揮できないでいる。

④政党支持で見ると、中川・峰崎・紙ともに各支持政党層のほぼ５５％～６０％を固めているが、社民党支持層が必ずしも萱野で固め切れておらず（まだ２割程度）、民主党の峰崎だけでなく、ほぼ同程度の割合で共産党・紙にも流れる傾向を示している（ほぼ１割強）。この社民党支持層の共産党候補への流出が、紙の健闘を支えているとも言える。

⑤性別では、男性は中川・峰崎・紙の順位となっているが、女性では中川・紙・峰崎の順である。

　職業別では、峰崎は公務員層や無職・高齢者層には浸透してきているが、自営業・主婦層では紙に劣位に立たされている。

　年齢別の傾向では、ほぼ全般的に峰崎は紙に対して優位に立っている（但し５０代を除く）。

⑥今回の参院選での投票率の低下は避けられないとの見通しが一般的であり（前回９５年参院選は４６．９％）、低投票率は組織票の堅い共産党にどうしても有利となる。

　もちろん悲観的にばかり見る必要はない。もともと旧社会党時代から、社会党系の候補は組織の活動量によって押し上げていく闘いを行ってきており、最終盤（告示後）までにこの組織活動がピークを迎えるような選挙戦を展開できれば、もともと組織基盤は優位にあるのだから、共産党候補を引き離すことができるものと確信する。

　ただし社会党から民主党へ移行して実質的に初めての選挙戦であるため、こうした独自の選挙戦原理を今回も発揮できるかどうかは、今後の実践的な活動次第によって左右される。

「共産党・紙が今後どこまで勢いを維持できるか（ピークはいつ迎えるのか)。峰崎が組織活動をフル回転させてどこまで組織票を掘り起こしていけるか」。最後はこの勝負になる。

⑦政党支持率は、自民が４月道新調査で 22.8 ％（５月調査では 27.7 ％)、民主 18.2（16.7）社民 4.2（11.8)、共産 6.4（8.3)、支持なし 35.6（22.1）であった。傾向は表題の通り。